

一二七 五十日祭

これの仮かりの小床おどこの靈代みたましろに暫しばしお鎮しずまり下さいます天理教〇〇分教会初代
会長故△△△△刀自とじの靈みたまの前に天理教 分教会長 慎つしん

で申し上げます

久方ひさかたの空行からいく月のさやかな光ひかりにも 立ち迷まよう浮雲うきぐもの障さわりがある如ごとくいつま
でも健すこやかに明あかるくお暮くらし頂いたきたいと 心こころより願ねがっておりましたのに 汝なが

刀自とじは去さる一月三日齡やわい九五歳の長命ながきいのちながら 入はいる月の影かげ消けえるが如ごとく

はかなくも現身うつしみを隠かくされてしまいました 夜空よぞらにかゝる月影つきかげを見ては あり

し日の笑顔えがおを思い浮うかべ 懐なつかかしき面影おもかげを睨まがたに画えがいておられますが 早はやや

五十日ごじゅうにちの月日つきひが夢ゆめの間に過すぎ 今宵こよひ茲こゝに靈祭みたままつりをつとめさせて頂いたく日ひと相あい

成なりました 御前おんまえに汝なが刀自とじの家族親族かぞくしんぞく又親またしき人々ひとびと寄り集つどい 改あらめてご

生前せいぜんの道みちすがらをあれこれと語かたり合あい 共に喜よろこび共に涙なみだした 昔いにしえをそれぞ

れ偲しのんでおります

改あらめて思い返かえせば 四十年よんじゅうねんと雖いえどもも言葉ことばではほんの一言ひとことで終おわりますが

人一倍ひとはい案あんじられた可弱かよわい体からだの頃ころから それこそ白髪はくはつの高齡こうれい者ものとなっても尚なお

毎年まいねんの元旦がんとんから大晦日おおみそかに至いたる吹雪ふぶきの舞まう酷寒こつかんの朝あさも 裾すそまでずぶ濡ぬれ

のどしやぶりの雨あめの夜よも親神様おやがみさま教祖おやさまを念頭ねんとうから放はなさず こゝ〇〇から△△へ

のだらく坂さかを登のぼり降りして よくぞ一日いちにちも欠かかさず上級じょうきゅう△△分教会へ

の日参にじさんをお続け下さいました 前日ぜんじつは今年の初風呂はつふうろに身みを清きよめ 夕食ゆうじよくを

済すまして来世つぎのよへ門出かどでされた見事みごとな花道はなみちは 葬儀そうぎにお出掛でかけ下くだされた方々かたがたか

ら一様いちように「大往生だいうじょうですネ 私わたしもあやかりたい」の声こゑとなっておりました

心配しんぱいされた墓地ぼんちの話はなしも恙つつがなく治おさまり 近く埋葬祭まいそうまつりの日ひとなりますが今宵こよひの

五十日祭ごじゅうにちまつりの御前みまえにとりどりの品々しなじなをお供しなえさせて頂いたき 一人ひとりひとりが心こころを

籠こめて伏ふし拜おろがむ姿すがたを御覽ごらん下さいまして 汝なが刀自とじはよりよき来世つぎのよをお迎むか

え下さると共に 天翔あまかけり国翔くにかけり先さきになり後あとになり〇〇家はもとより〇〇分

教会きょうかいに縁深えにしふかき人々ひとびとを夜よの守まもり日ひの守まもりにお見守みまもり下くだされ 尚なおまた又それぞれ

の持場もちば立場たちばを通して世界せかいのふしんの榮はえあるよふぼくとなりますようお導みちび

きの程ほどを一同いちどうと共に慎つしんでお願いねがい申し上げます